

# 「タオル帽子使って」

桜蘭中特別支援学級生手作り

## 製鉄病院に50個寄贈

抗がん剤治療を受けている患者らを思い手作りのタオル帽子を贈る活動をしている室蘭市桜蘭中学校(伊藤博明校長)の特別支援学級の生徒たちが18日、製鉄記念室蘭病院(前田征洋院長)に50個を届けた。

同学級は、寄贈されたタオルで帽子などを作り病院などに贈っているボランティア団体・ひだまりの杜(菅野佐千代代表)との縁で、教わりながら帽子作りに励む。昨年9

月に初めて市立室蘭総合病院に届け、2回目の今回は「校区内の病院に贈ろう」と、11人がミシン作業などを役割分担しながら3カ月余で仕上げた。

同日は生徒7人が届けた。「とてもきれいな仕上がり」(菅野代表)で、近村依香さん(3年)は「定規で測って作るのが難しかった」という力作。鎌田朱里さん(2年)は「失敗しないよう気を付きました。喜んでもらえてとてもうれしい」と笑

顔で語った。

受け取った製鉄記念室蘭病院のがん化学療法看護認定看護師・蒲原香奈子化学療法センター主任は「洗い替えなどでタオル帽子の数は足りず、寄贈は助かります。ありがたく使わせていただきます」と感謝した。特別支援学級で指導に当たる佐々木貴啓教諭は「日々の活動が誰かの支えになっていると生徒に感じてほしい」と願っている。

(粟島暁浩)



製鉄記念病院に手作りのタオル帽子を届けた桜蘭中特別支援学級の生徒たち